

特集 3

テクノロジー × Trust

PwCあらたのデジタル・テクノロジーに関する法人全体の取り組み

PwCあらたでは法人の幅広い活動にテクノロジーを用いており、データドリブン経営を推進しています。法人の活動の各領域におけるテクノロジーを用いた取り組みの概要は、以下のとおりです。

ガバナンス

テクノロジーを用いたガバナンス体制の効率化・高度化、テクノロジーに関するガバナンス体制の構築

人財

人財領域でのテクノロジーの活用、テクノロジーに関する人財の採用、発掘や育成への投資

私たちが目指す監査品質

私たちが目指す監査品質への取り組み

ガバナンス



人財



アシュアランス変革



品質管理



行動規範 Values and Behaviours

アシュアランス変革

テクノロジーを用いたアシュアランス変革、社会の期待に応えるためのデジタルへの取り組み

品質管理

リアルタイム監査に向けたテクノロジーを用いた品質管理の効率化・高度化、テクノロジーに関するリスク管理体制



テクノロジー × ガバナンス

テクノロジーを用いたガバナンス体制の効率化・高度化

経営判断のためのデータプラットフォーム

さまざまなデータを組み合わせ、それらのデータを管理するセキュアなデータプラットフォームを構築しています。

カスタマーリレーションシップマネジメント(CRM)、人財

情報、アサインメントなど複数の管理システムをつなぎ、データを活用することにより、品質向上とビジネスの成長をバランスよく実現するための経営の意思決定を可能としています。

テクノロジーに関するガバナンス体制の構築

人財DX担当、業務DX担当の配置

デジタルに関する体制をより一層強化するため、経営委員会メンバーとして、人財DX担当、業務DX担当を配置しました。

デジタルが当たり前の世の中において生産性・品質をさらに向上させるためにも、デジタルに精通したメンバーが経営会議に参画することで取り組みをさらに加速させていきます。



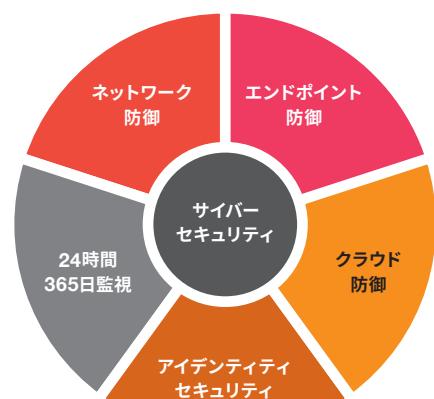
カルチャー変革・
人財DX担当執行役
鈴木 智佳子



トラストサービス
開発推進部
副部長
業務DXリーダー
宮村 和谷

情報セキュリティ管理体制・サイバーセキュリティ対策

監査法人の業務では、クライアントから機密情報を含むさまざまな情報を入手します。PwCあらたでは、情報セキュリティについて万全の管理体制を整備しています。ネットワーク防御、エンドポイント防御、クラウド防御、アイデンティティセキュリティ、24時間365日監視といった、サイバー攻撃に対応する体制を構築しています。また、情報セキュリティインシデント発生時においては、セキュリティホットラインへの速やかな報告を義務付けています。そして、情報セキュリティの維持・強化のため、2022年6月に法人全体でISO／IEC27001を取得しました。ISO／IEC27001は、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)に関する国際規格です。



知的財産に関するガバナンス体制

デジタルトランスフォーメーション(DX)により手作業で行われていた業務がシステム化されることで、特許をはじめとする知的財産に関する論点が発生します。知的財産に関するガ

バナンス体制を整備し知的財産に関する論点を視野に入れながらデジタル化を推進しています。



テクノロジー × 人財

人財領域でのテクノロジーの活用

コミュニケーションや研修におけるテクノロジーの活用

効率的なコミュニケーション、学習効果の最大化のために、メタバースでの入社式や懇親会、VRを活用した不正事例研修の実施、タブレット端末の活用を通じたオンラインミーティングやホワイトボード機能を活用しています。



メタバース入社式



VR不正事例研修



VR新入職員デジタル研修

データドリブンなオペレーション

職員エンゲージメント調査(GPS)についてテキストマイニング分析を実施することや、職員の意見や困り事を収集する目安箱においてデジタルツールを活用し、いつでも誰でも投稿が可能な環境を整備するなど、全ての職員の声に耳を傾け

るとともに効果的な施策の検討を行っています。

また、パソコン使用時間の自動モニタリングを実施し、過重労働の発生を防ぐために異常値を自動でピックアップし適切なフォローを行う仕組みを導入しています。

テクノロジーに関する人財の採用、発掘や育成への投資

デジタルアップスкиリング

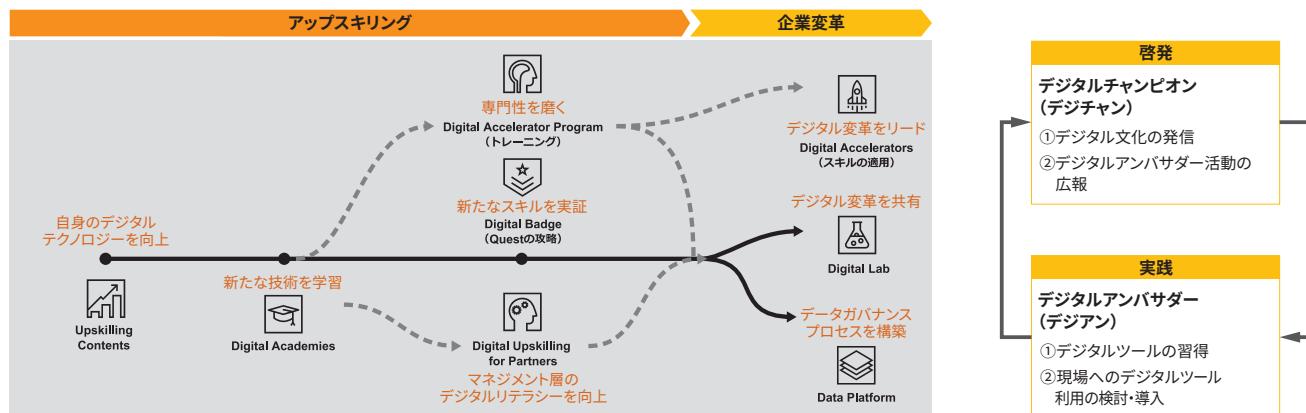
全てのパートナーおよび全職員向けのデジタル研修やデータの取り扱いに関する研修を実施するなど、デジタルに関する研修プログラムを充実させています。

また、デジタル・ケイパビリティを持つ人財を育成するデジタルアクセラレータープログラムや、現場のデジタル化の浸

透を担うデジタルチャンピオンやデジタルアンバサダーの育成を進めています。

デジタルに関するカルチャー醸成を推進するため、デジタルの活用事例を法人全体で共有するプラットフォームである Digital Lab を整備しています。

■ DXジャーニー(PwCの運営組織において、デジタル文化の醸成、デジタルの実践を推進する)



リバースメンタリング

デジタルツールやテクノロジーについて学ぶために、デジタルリテラシーの高い職員とペアになり、パートナーがメンター(Mentee)となる学習プログラムをデジタルアップスクリーニングの1つとして導入しています。

教える側のメンター(Mentor)となる職員も世代・価値観の違う仲間から今までにない知見や視座を獲得することができます。



テクノロジー × 品質管理

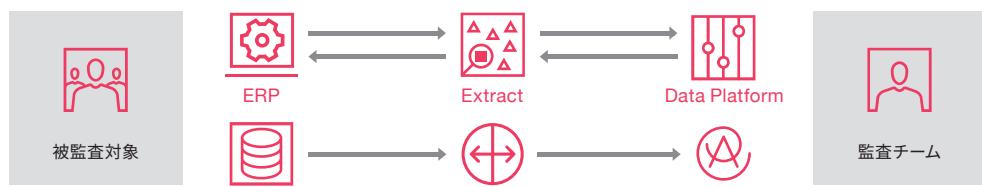
リアルタイム監査に向けたテクノロジーを用いた品質管理の効率化・高度化

リアルタイム監査に向けたデジタルツールの導入

リアルタイム監査に向けて、会計データの自動抽出システムであるExtractや、安全にデータを取得・送信・格納するData Platformといった、新たなシステムのパイロットテストが完了し導入に向けてスケールアップを図っています。

情報共有システムであるConnectや膨大なデータ分析シ

ステムであるHalo、電子確認状システムであるPwC Confirmations、そして電子監査調書システムであるAuraなどを駆使し、監査の高度化と効率化を図りながら、リアルタイム監査の実現に向けて準備を進めています。



監査契約書および監査報告書の電子発行

被監査対象と協力し監査契約書の電子化導入を加速させています。監査報告書の電子発行が公認会計士法の改正に

より可能となりました。この改正を受けて監査報告書の電子発行を推進しています。

Real Time Assurance(RTA)

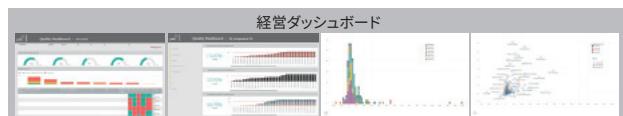
Aura内に蓄積された電子監査調書のデータを自動的に集約し業務進捗等をモニタリングする取り組み、Real Time Assuranceを進めています。

業務進捗の遅延や、監査アプローチに対して改善が必要

な監査チームについてリアルタイムにモニタリングし、品質管理上の問題が顕在化する前に対処するよう支援しています。当該データを用いて法人全体の品質の傾向の把握、改善のための分析も実施しています。

監査品質指標(AQI)

監査品質を見える化するための取り組みとして、監査品質指標(AQI:Audit Quality Indicators)を設定し、当該数値をモニタリングして、必要な改善活動を実施しています。



テクノロジーに関するリスク管理体制

リスク管理体制

テクノロジーの活用、プロダクト開発、運用および保守業務においては、IT・法務・リスクマネジメント・品質管理など多数

の部署にデジタルに関する適切な権限および責任を付与した上で、迅速な情報連携を可能とする体制を整備しています。

IT専門家の設置・育成

企業のIT化、デジタル化が進む中、従来の紙の証憑や手作業による統制の検証を中心とした監査手続では、大量のサンプルをテストしたとしても、監査リスクを低減させるには不十分です。

PwCあらたでは、監査全体に占めるIT監査の割合を高め、IT統制に対してより深度ある監査手続を実施しています。

ITに関する高度な監査手続を実施するため、PwCあらたにはシステム・プロセス・アシュアランス部(SPA)が存在し、328名のIT専門家が所属しています。SPAは多様な専門性を持つプロフェッショナルによって構成されており、監査チームと密に連携した監査体制を実現しています。

SPA人員数 328名



テクノロジー × アシュアランス変革

テクノロジーを用いたアシュアランス変革

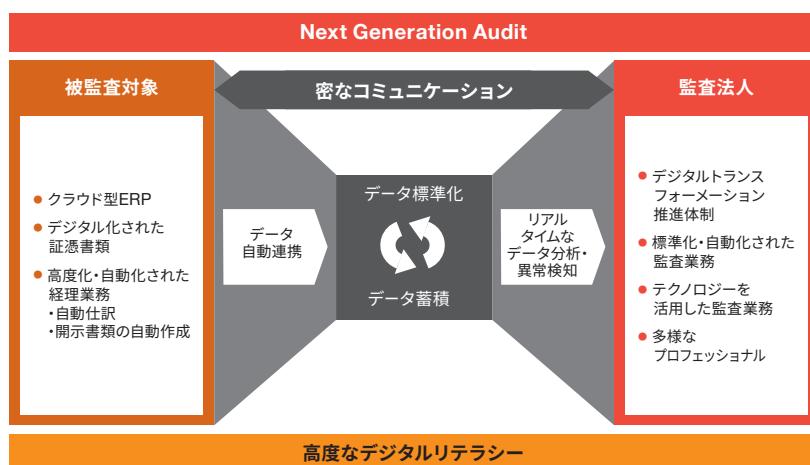
DX推進に必要な3つのステップ

DXを推進する手段の1つとしてAIの開発やデジタルツールの導入が挙げられます。

テクノロジーがそれ単体で効果を最大限に発揮することは容易ではありません。テクノロジー導入のためには、1.標準化、2.デジタル化、3.AIや自動化のためのテクノロジーの導入という段階的なアプローチを踏む必要があります。



リアルタイム監査像



PwCグローバルネットワークが世界共通で利用するさまざまな監査システムをプラットフォームに統合し、データの自動連携から監査調書の作成までを一貫して行います。

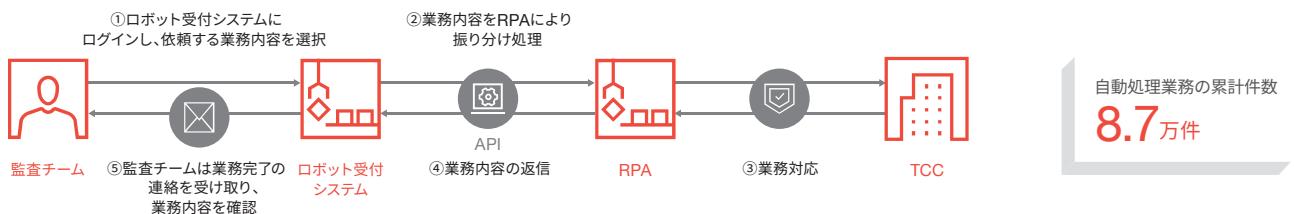
取得したデータは標準化して取り込むことで、プラットフォーム上にあるさまざまな監査ツールとシームレスに連携し、高品質な監査と業務の効率化をともに実現します。

詳細はp.115を参照

Robotic Process Automation(RPA)

人の判断が不要な業務はRPAに移管しています。決まった手順で大量に処理する業務にRPAの導入を進めています。新

しい業務についても順次、手順を標準化し業務品質を維持しながら、全体として業務の標準化を実現します。



データ可視化ツール

監査で用いられるデータは膨大で、かつ数値を主とするため、そのままでは十分に理解することが困難な場合があります。

ビジュアル化により、多くの情報を引き出すことを可能とし、相互理解を促進できることで深度ある監査を実現できます。

ツール利用者数 **908名**

社会の期待に応えるためのデジタルの取り組み

デジタル・トラストサービス開発

社会の「信頼に関する課題」が変容する大きな要因の一つとして、デジタル技術の進展が挙げられます。

信頼に関する課題の変化に対応するため、私たち自身だけでなく、ブローダー・アシュアランス・サービス(BAS)としてDXやデジタル・トラストサービスの開発を推進しています。

例えば、PwCのデジタル・トラストサービス・プラットフォーム

ムの一つであるPwC's Lab Assistance Tool(以下、PLAT)があります。PLATをはじめとするクラウドサービスを通じて、PwCは「信頼の空白域」の補完を支援します。さまざまな課題に対応したモジュール(機能単位)をプラットフォーム上に構築し、コスト低減や差別化につながる新しい体験を個人や社会に提供します。

■ デジタル・トラストサービス・プラットフォームの概念図



サイバーセキュリティに関するサービス

デジタル化が推進されていく社会において、サイバーセキュリティは社会課題といつても過言ではありません。

PwCあらたでは、クラウドサービスのセキュリティ評価

や、サイバーセキュリティリスクに対する内部統制の有効性評価など、さまざまなサイバーセキュリティに関するサービスをBASとして提供しています。